

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																			
ECCアーティスト美容専門学校		平成15年3月28日	中村 竜二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西一丁目8番5号 (電話) 06 - 6373 - 1447																			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人山口学園		昭和58年11月22日	酒元 英二	〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西二丁目3番35号 (電話) 06 - 6366 - 0144																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化教養専門課程	アーティスト学科 ネイリストコース		平成20年文部科学大臣 告示第153号	—																		
学科の目的	本校は、学校教育法及び教育基本法に従い造形教育を基礎として専門技術と知識を教えるとともに、豊かな創造性と進取の気性、自律の精神に富んだ実社会に有用な人材を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1710単位時間	300時間	1500時間	0時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
284人		32人	1人	3人	11人	14人																	
学期制度	■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業出席率が75%以上であること。 総合評価点が50点以上であること。																		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：8月1日 - 8月31日 ■冬季：12月20日 - 1月8日 ■学年末：3月1日 - 3月31日			卒業・進級条件	卒業の要件) 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。																		
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会			課外活動	■課外活動の種類 ハイキング、スポーツ大会、ハロウィンフェスティバル、文化祭、海外研修 等 ■サークル活動：有																		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (令和2年度卒業生) ネイル業界 UNPLUGGED、カルミネーション、APA KABAR、cocoloba、材リブ、Createur、Createur、フリーゾーン、ラパンセ、シンク他 ■就職指導内容 ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導・企業紹介と面接対策 ■卒業生数 ： 14 人 ■就職希望者数 ： 14 人 ■就職者数 ： 14 人 ■就職率 ： 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ： 100 % ■その他 ・進学者数： (令和 3年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JNECネイリスト技能検定 2級 (取得率)</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>JNECネイリスト技能検定 1級 (取得率)</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>JNAジェルネイル技能検定上級 (取得率)</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他 (民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JNECネイリスト技能検定 2級 (取得率)	③	14人	14人	JNECネイリスト技能検定 1級 (取得率)	③	14人	12人	JNAジェルネイル技能検定上級 (取得率)	③	14人	14人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
JNECネイリスト技能検定 2級 (取得率)	③	14人	14人																				
JNECネイリスト技能検定 1級 (取得率)	③	14人	12人																				
JNAジェルネイル技能検定上級 (取得率)	③	14人	14人																				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和3年4月1日時点において、在学者29名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者27名 (令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 金銭面、進路変更、人間関係等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等			■中退率	6.9%																		

<p>経済的支援 制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※特待生制度、学費減免優遇制度、ひとり暮らし支援制度等</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による 学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科の ホームページ URL</p>	<p>URL:http://art.ecc.ac.jp/</p>

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

ネイルを中心とした美容分野の知識・技術を幅広く習得するため、ネイル業界を中心とした企業等と連携し、現場の意見・アイデアを導入し、卒業後、即戦力として活躍できるための体制を構築する。

①教育課程編成委員会を設置し、これを年間2回開催することにより企業等との連携を強化するとともに意見・アイデアをカリキュラム反映に活用する。

②協会・企業・サロン等に所属する非常勤講師を含めた会議を年間2回開催し、カリキュラムの確認、意見交換を実施することにより、実践的な授業展開を図るとともに学科としての意志統一を行う。

③特定のカリキュラム設定においては、関連企業等と提携することにより、現場に即した授業展開を図る。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、「教育課程編成委員会規定」に基づき、第2条で記載の通り、当該学科の専攻分野であるネイル/美容/ビューティ/メイクを中心とした企業、団体等との連携を確保して、授業科目の開設その他教育課程の編成を適切かつ円滑に行う組織として学内に設置されたものである。学内で定例化しているカリキュラム編成会議・責任者会議を経て審議・討議された課題を中心に議題を設定し、これに基づき教育課程編成委員会で討議された結果は、再度、カリキュラム編成会議・責任者会議で具体策等を討議し緊急性/重要性を考慮の上、カリキュラム改善等の対応を実施する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮上昌悟	一般社団法人アスリートネイル協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日 (2年)	①
出水康博	株式会社AVANCEホールディングス	令和2年4月1日～令和4年3月31日 (2年)	③
能勢健次	株式会社TAT	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	③
長崎 泰子	株式会社フリーゾーン	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	③
川添雅英	ECCアーティスト美容専門学校 学校長代理	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	-
東井喜美	ECCアーティスト美容専門学校 副学校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回 9月、2月を基本とする。

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月29日 11:00-12:30

第2回 令和4年2月28日 11:00-12:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会において①接客中の会話・コミュニケーションのトレーニングについて、②SNSの活用について、③就職後の目標設定について等を中心として意見交換を行った。

①接客中の会話・コミュニケーションの強化については、1年次の必修授業の中でテーマに沿った話題を話しながら施術を行う授業を実施し、サロン実習で入客前に手を動かしながら会話をするトレーニングを行っている。また2年次前期には、相モデルでお客様の要望を引き出す会話のトレーニングを行い、より実践的なコミュニケーションを習得している。

②SNSの活用については、学内サロンLAPUAのInstagramを学生に投稿させるところからスタートしている。個人のネイルアカウントについては、技術の習得状況等を考慮した開設時期を検討中。

③就職後の目標設定については、業界研究の授業の中で1年後～10年後の自分がどうなっていたいのかを書き出す取り組みを実施し、将来のビジョンを描かせている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野であるネイル業界を中心とした企業・協会等と連携し、現場を想定した技術習得ができる実習・演習の設定に繋げる。特に①公衆衛生面の知識・技術の習得、②現場で活用できる専門技術の習得、③現場でのワーク、インターンシップ等による現場を想定した技術の習得を図る。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ネイルの最新技術の習得、実践的なサロンワーク、サロン運営に必要な技術・知識習得に当たり、TAT社の現場に基づいた実践力をカリキュラムに組み込んでいる。

ネイルのサロンワークに必要な知識・技術の習得、ネイルサロンコンセプト・立地・ターゲット等を基にサロン企画を行い、その企画を形にする開業・運営資金のしくみを学習するに当たり、株式会社TATと事前に協議の上カリキュラムを設定、授業内容/教材/評価方法を協議の上3月末までにシラバス作成する。株式会社TATから派遣の講師により授業実施、試験点・平常点・課題点に基づき評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ネイル サロン ワーク テクニクⅢ	サロンワークに必要なスカルプチュア等の知識・技術を学習しサロンワークに活かします。	株式会社TAT

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
教務規約第35条に従って、教育の一層の充実を図るため、企業、団体等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修等や指導力の修得・向上のための研修等を実施する。
研修企画部門を組織して指導力の修得・向上のための研修等の年間計画を年度初めに計画し、教育進捗状況に合わせて内容・時期を調整しながら設定する。また、専攻分野における実務研修は日本ネイリスト協会主催の技術研修への教員研修参加を定例化し、それに加えて必要な研修を確認し設定する。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「JNA認定講師研修会」

(連携企業等：「日本ネイリスト協会」)

期間：令和4年3月1日 対象：専任、兼任教員

内容：JNA認定講師を対象とした技術研修会

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「Hyper-QU研修」

(連携企業等：株式会社図書文化社)、

期間：令和3年4月27日 対象：専任教員、教務スタッフ

内容：充実した学校生活を送るためのアンケートHyper-QUの結果分析、活用法研修

2) 研修名「PEPTALK研修」

(連携企業等：一般財団法人 日本PEP TALK普及協会)、講師「認定講師」

期間：令和4年3月17日 対象：専任教員、教務スタッフ

内容：人を元気づけ、勇気づける魔法の言葉、ペップトーク実践研修

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「JNA認定講師研修会」

(連携企業等：「日本ネイリスト協会」)

期間：令和5年2月 対象：専任、兼任教員

内容：JNA認定講師を対象とした技術研修会

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「コーチング研修」

講師：一般社団法人生涯学習開発財団 認定マスターコーチ

期間：令和4年9月21日 対象：専任教員、教務スタッフ

内容：学生のやる気、主体性を育むためのコーチング研修

2) 研修名「hyper - QUの活用法研修会」

(連携企業等：株式会社図書文化社)

期間：令和4年12月 対象：専任教員、教務スタッフ

内容：充実した学校生活を送るためのアンケートhyper-QUの結果に基づく学生支援方法について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

1. 学校関係者評価の目的

本校は実践的な職業教育の質保証及び質の向上のために、自己評価及びそれを基にした学校関係者評価を実施する。また学校関係者評価を行う主体として学校関係者評価委員会（以下「関係者委員会」という）を設ける。

2. 学校関係者評価委員会の構成

関係者委員会は、関連業界等関係者、卒業生、保護者または地域関係者、その他学校長が必要と認める者から学校長が委託する委員により構成する。委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残存期間とする。委員は再任することができる。

3. 学校関係者評価委員会の運営

関係者委員会に委員長を置く。委員は学校長が招集し、委員長がその運営に当たる。学校長が必要と認める場合は、委員以外の者の出席を求めることができる。関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。学校長は自己評価の結果を関係者委員会に報告し、意見を聴く。関係者委員会は自己評価の進捗状況に応じて、次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。

4. 学校関係者評価委員会実施結果の活用

委員長は、関係者評価委員会の評価結果をまとめ、報告書を作成する。学校長は関係者評価委員会の評価結果についてその意見を尊重し、教育活動及び学校運営等の質保証と向上に継続的に努めなければならない。

5. 学校関係者評価結果の公表

年に2回の関係者委員会を開催し、速やかに報告書を当該ホームページ上に公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

事前に校内で作成した上記項目による自己評価報告書をもとにした自己評価委員会を開催し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を行った。この自己評価委員会の結果を受けて、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、学校関係者評価委員会で状況を報告している。2021年度は9月11日、2月16日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2021年度1回目は自己評価報告書を事前に各委員に送り、当日は学校からの発表と質疑応答の時間とした。また学校からの質問も事前にお送りし、問題解決の提言をいただいた。2回目は1回目にいただいた提言に対しての実行もしくは進捗の報告を行っている。両日も教育成果の昨年との比較、コロナ禍による学習環境の変化と就職に関する質疑が多くなった。2020年度の自己評価報告書及び2021年度の学校関係者評価委員会報告書を当校ホームページ上で公表している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎裕輔	株式会社クラフト・ワークス	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	分野企業
大久保紀子	一般社団法人ジャパン・ビューティメソッド協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	分野協会
川端勉	資生堂プロフェッショナル株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	分野企業
貴治康夫	元大阪府立高等学校教頭	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	高校等関係者

中上隆雄	済美地域社会福祉協議会	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	地域関係者
鈴木有紗	卒業生	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	卒業生代表
<p>※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等</p>			
<p>(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() 令和3年9月30日、令和4年3月31日 URL:http://art.ecc.ac.jp/</p>			

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム（科目配当表（科目編成・授業時数） ・進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・終了の認定基準等） ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業者数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数（職名別） ・教職員の組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み状況 ・実習・実技等の取り組み状況 ・就職支援等への取り組み支援 ・企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取組状況、課外活動（部活動、サークル活動、ボランティア活動等）
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱い（金額、納入時期） ・活用できる経済的支援措置の内容等（奨学金、授業料減免等の案内等）
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣状況 ・外国の学校等との交流状況
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://art.ecc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程アーティスト学科ネイリストコース) 2022年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ネイル ケア&カラーⅠ	ネイル理論全般を学習し、ネイルの基礎となるネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ技術を習得します。JNECネイリスト技能検定3級・2級取得を目指します。	1前	120	8	0	4		○			○	
2	○			ネイル ケア&カラーⅡ	ネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ技術を繰り返し演習します。	1前	90	6	0	3		○		○		
3	○			アートネイルズⅠ(フラット/3D&エンボス)	アートの基礎であるフラットアート、検定3級、2級のネイルアートテクニック、3Dアート・エンボスアートなどのネイルアートテクニックを学習します。	1前	60	4	0	2		○			○	
4	○			ヘア&メイクアップⅠ(NA)	セルフヘアや就活メイクを含めたトータルコーディネート力を高める為、イメージメイクを学習します。また、崩れにくく、良い印象を与えるメイク技術基礎を習得します。	1前	30	2	0	1		○		○		
5	○			カスタマーズサービススキル	プロのネイリストとして、お客様と接する上で重要な接客マナーを身につけます。	1前	30	2	1	0		○			○	
6	○			カラー コーディネーション&パーソナルカラー(NA)	「色の三属性」「配色」「トーン」等、実習を通して色彩の基礎を習得します。	1前	30	2	1	0		○			○	
7	○			デッサン・ファッションイラストレーション(NA)	デッサンの基礎を学び、ヘアスタイルのデザイン、メイク、ファッションを含めた全身イラストが描ける技術を習得します。	1前	30	2	1	0		○			○	
8	○			General EnglishⅠ	日常的に使う英会話表現をロールプレイング練習により習得し、英語でのコミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	1前	30	2	1	0		○		○		
9	○			業界研究Ⅰ(NA)	ネイル業界と業界の職種を把握し、企業特性等について自ら調べる方法を学び、十分な業界研究を経て希望する企業選択やキャリアプランニングを行います。	1前	30	2	1	0		○		○		
10	○			ネイル スカルプティングⅠ(チップオーバーレイ)	スカルプチュア・チップオーバーレイの基本となるナチュラルスタイル技術を習得します。JNECネイリスト技能検定1級取得を目指します。	1後	120	8	0	4		○			○	
11	○			ジェル ネイルズⅠ	JNAジェルネイル初級検定合格を目標とし、ジェルネイルの基本知識・技術を習得します。	1後	90	6	0	3		○		○		
12	○			アート ネイルズⅡ(ミックスメディア)	アクリルを使ったアートの技法を学び、アートⅠで習得したアート技法を組み合わせ、バランスや配置を学習し、1級のミックスメディアアート、そして2年次のサロンワーク実習で活かせるエンボスやジェルアートを学びます。	1後	60	4	0	2		○			○	

13	○		ネイル サロンワーク テクニック I	2年次のサロンワーク実習に向けて、フットケア技術とサロンにおけるネイル知識、技術を学習します。	1後	120	8	0	4		○	○		
14	○		General English II	日常的に使う英会話表現をロールプレイング練習により習得し、英語でのコミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	1後	30	2	1	0		○	○		
15		○	就職対策 I	自分をアピールする方法や履歴書の書き方の基本を学習し、希望する職業に就けるよう具体的に準備を行います。	1後	30	2	1	0		○	○		
16		○	日本語コミュニケーション II	日本人とのコミュニケーション、日々の学習に役立つ日本語を習得する。N2レベルの日本語を用い、書く・話すを通して、言語能力を向上させる。	1後	30	2	1	0		○		○	
17	○		ネイル スカルプティング II (コンテストスタイル)	フレンチスカルプチュア技術を習得します。また、スカルプチュア・ケアカラーのコンテスト・検定スタイルを学習します。	2前	120	8	0	4		○		○	
18	○		ジェル ネイルズ II	ジェルネイル検定中級合格を目標とし、サロンワークにおけるジェルネイル技術・デザインアレンジ技法を学習します。	2前	90	6	0	3		○			○
19	○		アート ネイルズ III (作品制作)	習得したアート技法を活かし、サロンワークで活用できるアートや集大成の作品作りを行います。	2前	30	2	0	1		○			○
20	○		ネイル サロンワーク I	学内サロン「ラプア」にてサロンの運営、接客全般を実習し、現場対応力を養います。	2前	90	6	0	3		○		○	
21	○		ネイル サロンワーク テクニック II	サロンワークに必要な知識・技術を学習しサロンワークに活かします。	2前	60	4	0	2		○		○	
22	○		Customer Service English I (NA)	職種に特化した英会話表現をロールプレイング練習により習得し、英語でのコミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	2前	30	2	1	0		○		○	
23		○	就職対策 II	多様化する面接試験内容に対応し、面接時の応答力やアピール力を習得し就職試験の突破を目指します。	2前	30	2	1	0		○		○	
24		○	日本語コミュニケーション III	日本人とのコミュニケーション、日々の学習に役立つ日本語を習得する。N2レベルの日本語を用い、書く・話すを通して、言語能力を向上させる。	2前	30	2	1	0		○			○
25	○		アートネイルズ IV (エアブラシ)	ネイルにおけるエアブラシの基本から応用テクニックまで学習します。また、アート技法を組み合わせ作品を制作します。	2後	60	4	0	2		○			○
26	○		ジェル ネイルズ III	ジェルネイル検定上級合格を目標とし、サロンワークにおけるスカルプチュア・ジェルネイル技術(フット、マシン含)・デザインアレンジ技法を学習します。	2後	90	6	0	3		○			○
27	○		ネイル スカルプティング III (フレンチ/デザイン)	フレンチルックのスカルプチュア・カラーリング技術を習得します。また、デザインスカルプチュア技術を習得します。	2後	90	6	0	3		○			○

28	○		ネイル サロン ワーク テクニッ クⅢ	サロンワークに必要なスカルプチュア等の知識・技術を 学習しサロンワークに活かします。	2後	60	4	0	2		○				○
29	○		ネイル サロン ワークⅡ	お客様のご要望にお応えできる技術・スピード・接客等 をサロンワーク実習で習得し、即戦力を養います。	2後	90	6	0	3		○		○		
30	○		ヘア&メイク アップⅡ (NA)	1年次「メイクアップⅠ」の復習、ヘアアレンジ、イ メージタイプ分析についても学習し、プロデュース力や 提案力をさらに高め、ネイリストとして自分の表現力を 身につけながら、ひとりひとりの「らしさ」、魅力を表 現するスキルを学びます。	2後	30	2	0	1		○		○	○	
31	○		Customer Service English Ⅱ (NA)	職種に特化した英会話表現をロールプレイング練習に より習得し、英語でのコミュニケーション力の向上を図 ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を 深めると共にGLOBAL精神を養います。	2後	30	2	1	0		○		○		
合計						29科目					1800単位時間(120単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①卒業要件：各学年58単位（卒業年次は54単位）を修得しているものに対して、学年末に進級・卒業判定会議を開催し、学校長が進級・卒業を認定する。	1学年の学期区分	2期	
	②履修方法：選択必須科目については、専攻等により事前に選択する。必須科目については自動的に登録される。	1学期の授業期間	15週